

# 平成31年度 全国学力・学習状況調査結果

文部科学省が実施した、平成31年度の「全国学力・学習状況調査」について、芦屋市全体の結果を取りまとめましたので、お知らせします。

## 1 芦屋市全体の結果について

今年度の教科に関する調査は、国語、算数・数学、英語（中学校のみ）の3教科で実施されました。本市の平均は、小中学校ともに今年度も全ての教科で全国平均を上回り、市教育委員会では、「評価できる結果」と考えています。

質問紙調査結果では、本市児童生徒の学習習慣、生活習慣等に関して評価できる点が多いものの、いくつか課題も読み取れることから、今後も積極的に改善に取り組めます。

## 2 調査の概要

### (1) 調査の目的

- ① 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ② 各教育委員会、学校等が、上記の取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### (2) 調査の対象学年及び実施状況

対象学年	在籍数（人）	受検者数（人）
小学校6年生	828	809
中学校3年生	549	506
合計	1377	1315

### (3) 調査実施日 平成31年4月18日（木）

### (4) 調査の内容

#### ① 教科に関する調査（国語、算数・数学、英語）

ア ・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容

・実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

イ ・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力

・様々な問題解決のための構想を立て、実践し評価・改善する力等

※調査問題では、上記アとイを一体的に問うこととする。

出題形式は、各教科で記述式の問題を一定割合で導入する。

中学校英語においては、「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと」、「書くこと」に関する問題を  
出題する。「話すこと」に関する問題の解答は、口述式によるものとする。

#### ② 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

### 3 調査結果の公表について

#### (1) 国・県の基本方針

本調査により測定できるのは学力の特定の一部であることや、学校における教育活動の一側面に過ぎないことなどを踏まえ、結果の公表にあたっては、序列化や過度な競争につながらないように十分配慮することとしています。

#### (2) 本市の基本方針

調査結果を十分に把握・検討し、今後の教育施策や教育実践の改善に反映していくことが重要であるとの基本的な考えのもと、説明責任を果たすためにも市全体としての結果を示すこととしています。

### 4 本市の各教科の調査結果の概要

#### (1) 全国と本市の平均正答率の比較

校種	教科		国語	算数・数学	英語
	小学 6 年生	全国	平均正答率	63.8	66.6
芦屋市		平均正答率	68.0	74.0	
		全国比較	107	111	
		評価	良好	良好	
中学 3 年生	全国	平均正答率	72.8	59.8	56.0
	芦屋市	平均正答率	76.0	66.0	63.0
		全国比較	104	110	113
		評価	おおむね良好	良好	良好

※全国比較は全国の平均正答率を100とした場合の本市の数値。評価は115以上を「極めて良好」、105以上115未満を「良好」、95以上105未満を「おおむね良好」、95未満を「課題あり」としている。

※中学校英語調査の結果については、「話すこと」以外の「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の合計を集計しています。

#### (2) 各教科の領域別の概況

国語、算数・数学、英語（中学校のみ）状況については、本市の小中学生ともにすべて全国正答率を上回っており、評価できる結果となっています。本年度から教科に対する調査は、従来のA問題（主に知識を問う問題）、B（主に活用を問う問題）が一体化され実施されました。その中で、各教科に記述式問題が一定の割合で導入されました。各小中学校の学習活動の中で、児童生徒は「書く活動」を多く経験し、その結果、解答からは、自分の考えをなんとか伝えようとする粘り強さや意欲が見られるようになってきました。しかし、記述式の表現では、各教科の問題の回答より、課題が見られます。

今後、国語では、複数の条件に合わせて文章を書く活動や自分の考えを具体的に表現する機会を増やしていくこと。算数・数学では、文章や写真、図や表など複数の資料を読み取り内容をとらえることや、数学的な表現を用いて説明するような活動に、一層取り組む必要があります。また、英語では、学習の土台となる文法事項等の基本的知識を、「読む・聞く・話す・書く」のそれぞれの活動に活用させることを意識した授業づくりを心掛け、より一層の定着を目指していきます。

【小学校 国語】 ○は比較的高い割合で達成されているもの ●は課題があると判断されるもの

問題 番号	設問の概要	平均正答率	
		芦屋市	全国
1三	● 公衆電話について調べたことを【報告する文章】の□に、「2 調査の内容と結果」の(1)と(2)で分かったことをまとめて書く。	33.4%	28.8%
1 四(1)ア	● 公衆電話について調べたことを【報告する文章】の____部アを、漢字を使って書き直す(調査のたいしょう)	46.5%	41.9%
2 一(2)	○ 食べ物の保存についてまとめている【ノートの一部】の□アに入る、疑問に思ったことの①に対する答えになるように考えて書く	84.7%	80.7%
3一	○ 昼職人への【インタビューの様子】の□アに入る、自分の理解が正しいかを確認する質問として適切なものを選択する	84.7%	81.3%

- 報告する文章の構成をとらえ、2つの記事のそれぞれのまとめを見つけ、整理して書くことが課題である。
- 文章を読み返し、文脈に応じて表記されている平仮名の意味を考え、あてはまる漢字を書くことが課題である。
- 文章の内容を的確におさえ、疑問に思ったことを書く力が優れている。無答率の低さからも児童の書く意欲の高さがうかがえる。
- 話の内容を理解するために必要である話し手の意図を捉えながら聞く・自分の意見と比べながら聞く力が見られる。

【中学校 国語】 ○は比較的高い割合で達成されているもの ●は課題があると判断されるもの

問題 番号	設問の概要	平均正答率	
		芦屋市	全国
1三	○ 「みんなの短歌」に掲載されている短歌の中から一首を選び、感じたことや考えたことを書く	92.9%	91.2%
1四	● 「声の広場」への投稿を封筒で郵送するために、投稿先の名前と住所を書く	56.1%	56.8%
2一	○ 話合いでの発言の役割について説明したものとして適切なものを選択する	86.4%	80.4%
2三	● 話合いの流れを踏まえ、「どうするか決まっていないこと」について自分の考えを書く	65.9%	60.4%

- 短歌の中の言葉を適切に取り上げ、情景や心情を想像し、自身が感じたことや考えたことを具体的に書くことができている。無答率の生徒もほぼなく、書くことの意欲が見られる。
- メールアドレスなど不要な情報を書き込む誤答が多く見られた。
- 話合いの話題や方向を捉えることができている。
- 文章の概要を読み取ることができているが、それを踏まえて「どうするか決まっていないこと」を解決する具体的な案を、自分の考えで書くことが苦手である。

### 【指導の改善の方向性】

- ア 文章を読む時に、原因と結果・意見と根拠など、各段落や文の関係を意識しながら、文章構成を捉える学習活動を入れる。
- イ 語彙を豊かにするため本や新聞を読み、多くの言葉や文字に触れる経験をさせる。学校図書館やインターネットなどを通じて、主体的に情報を探していく学習活動を取り入れた授業を構想する。
- ウ 目的や意図に応じて、文章やグラフ、アンケート結果といった複数の資料を関連付け、自分の考えも入れながら、わかりやすく書く学習活動を多く設定する。
- エ 字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して書く指導を児童生徒の実態に即して、適切に設定し、書写の能力を学習や生活に役立てるように指導する。

### 【小学校 算数】○は比較的高い割合で達成されているもの ●は課題があると判断されるもの

問題 番号	設 問 の 概 要	平均正答率	
		芦屋市	全 国
1(1)	○ 長方形を直線で切ってできた図形の中から、台形を選ぶ。	95.8%	93.1%
1(2)	● 二つの合同な台形を、ずらしたり、回したり、裏返したりして、同じ長さの辺どうしを合わせてつくることのできる形を選ぶ。	66.5%	60.3%
2(1)	○ 1980年から2010年までの、10年ごとの市全体の水の使用量について、棒グラフから読み取って書く。	95.9%	95.2%
2(3)	● 二つの棒グラフから、一人当たりの水の使用量についてわかることを選び、選んだわけを書く。	63.8%	52.1%
3(2)	● 減法の計算の仕方についてまとめたことを基に、除法の計算の仕方についてまとめると、どのようになるか書く。	42.2%	31.1%

- 台形の構成要素をしっかり理解できている。
- 二つの図形をずらす、まわすことで構成できる図形を想像することが課題である。
- 一つのグラフから情報を読み取る力は、ほとんどの児童が定着している。
- 二つの棒グラフの情報を組み合わせて考えることに課題が見られる。また、問題の文章量が非常に長く、解答を導き出す上で、読解力も問われる問題であった。
- 全国の平均正答率を10%以上、上回っているが、この問題の正答率が算数の問題の中で一番低かった。計算する力はしっかりと定着しているが、答えに至る過程や理由についての理解には課題が見られる。

【中学校 数学】○は比較的高い割合で達成されているもの ●は課題があると判断されるもの

問題 番号	設問の概要	平均正答率	
		芦屋市	全国
2	○ 連立二元一次方程式を解く。	79.3%	70.1%
3	○ $\triangle ABC$ を、矢印の方向に $\triangle DEF$ まで平行移動したとき、移動の距離を求める。	87.0%	83.6%
6(1)	● 冷蔵庫Aの使用年数と総費用の関係を表すグラフについて、点Pのy座標と点Qのy座標の差を、事象に即して解釈することができる。	46.3%	38.8%
(2)	● 冷蔵庫Bと冷蔵庫Cについて、式やグラフを用いて、2つの総費用が等しくなる使用年数を求める方法を説明する。	42.7%	34.7%
7(1)	○ 証明で用いられている三角形の合同条件を書く。	81.7%	75.8%
8(2)	● 「1日に26分ぐらい読書をしている生徒が多い」という考えが適切でない理由を、ヒストグラムの特徴を基に説明する。	39.5%	40.8%

- 連立二元一次方程式を解く問題は、類似問題として、ここ数年連続して出題されているが、高い正答率であった。
- 図形の平行移動の意味を問う問題であった。数学の基本的な知識を問う問題であるが高い正答率であった。
- 一次関数について、式・グラフを相互に関連付けて解答する問題であるが、式をグラフに表した際に、それぞれの座標が表しているものを読み取ることが課題である。
- 表や図、グラフなどさまざまな資料がある上に文章量が多い問題であった。解答は、求める方法を説明するように問われていたが、数学的に説明が不十分であった。
- 証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を高い割合で理解をしていることがわかる。
- 表やグラフの読み取りをし、「最頻値」と「平均値」の違いを明確にした上での説明に課題が見られた。

【指導の改善の方向性】

- ア 計算や反比例の式、図形の構成要素や証明条件など基礎・基本の部分の理解がより定着するように指導法を工夫する。
- イ 計算力など伸ばしていくことと同時に、答えに至る過程や理由についての理解を深めていくため、式の成り立ちをグループ学習等で話し合いを重ねながら説明力を育てていく。
- ウ グラフから資料の特徴や傾向を読み取るとともに、複数の資料の特徴や傾向を関連付けながら、総合的に捉えることができるような力をつけていく。
- エ 目的に応じてデータを収集し、ヒストグラムなどに整理しながら、そのデータの分布傾向を読み取り、統計的に問題解決できるような学習活動を設定する。

【中学校 英語】 ○は比較的高い割合で達成されているもの ●は課題があると判断されるもの

問題 番号	設問の概要	正答率	
		芦屋市	全国
1 (1)  (2) 4	「聞くこと」の力を問う問題		
	○ ある状況を描写する英語を聞いて、その内容を最も適切に表している絵を選択する。	93.3%	91.1%
	○ 教室英語を聞いてその内容に最も適切に表している絵を選択する。	92.5%	92.5%
	● 来日する留学生の音声メッセージを聞いて、部活動についてのアドバイスを書く。	18.4%	7.6%
5 (1)  8	「読むこと」の力を問う問題		
	○ ある場所を説明する英文を読んで、空所に入る語句として最も適切なものを選択する。	89.5%	79.4%
	● 食糧問題について書かれた資料を読んで、その問題に対する自分の考えを書く。	15.3%	10.9%
9 (2) 10	「書くこと」の力を問う問題		
	○ 文中の空所に入れる接続詞として、最も適切なものを選択する。	70.8%	58.2%
	● 学校を表す2つのピクトグラム（案内用図記号）の案を比較して、どちらがよいか理由とともに意見を書く。	2.4%	1.8%

【「聞くこと」の力を問う問題】

- 語と語の連結による音の変化をとらえて、情報を正確に聞き取ることができている。
- listen to the CD, write your idea など授業でよく使用される英語を聞き、情報を正確に聞き取ることができている。
- 音声メッセージの内容を把握することに課題が見られた。また、適切な応答に必要な文法事項の誤りも見られた。

【「読むこと」の力を問う問題】

- books のみに着目すれば「book stores」を選択しがちであるが、文全体を読み取り、borrow books などの記述から判断し、「libraries」と正答できる生徒が多かった。
- 食料問題について書かれた資料を読むことはできたが、その問題を解決するために自分ができることを考えとして示すことができない生徒が半数を超えた。

【「書くこと」の力を問う問題】

- 「駅で友人にあった」と「彼に話しかける時間がなかった」の二つの文の意味を考えた上で、適切な接続詞を選択することができた。
- 英語の問題で一番低い正答率であった。必要な条件をとらえて、解答ができている生徒が多いが、文法事項の誤りや、コミュニケーションに支障をきたす単語を使用した解答も多かった。

※参考値として公表されている「話すこと」の力を問う問題では無回答率も低く、意欲的に話そうとする生徒達の姿勢が見られた。しかし、英語の質問内容については理解をしているが、正しい文法事項にそって、正確に応答する力に課題が見られた。

## 【指導の改善の方向性】

- ア 基本的な文法事項は、「読む・聞く・話す・書く」の4技能すべてが必要となる。知識としては理解できていても、活用することが課題である。授業内の言語活動の中で理解を深め、さらに活用しながら学習する機会を多く設定していく必要がある。
- イ まとまりのある文章を読み、要点や概要を把握する学習活動を通じ、書き手や話し手の伝えたいことをしっかり捉えることができるようにする。
- ウ 英文を書く際に、中身や構成、どのように表現をするかななどを、クラス全体で考える活動を通じ、その中で成功体験を積み重ね、自信につながるようにする。
- エ 自由な会話形式の学習時間を設定し、自分の力で作り出した会話を生徒自身が楽しめるようにすることで、学習意欲を高めていく。

## 5 教科の学習に対する子どもの意識の変化

(単位:%)

設 問	教 科	小学校		中学校	
		H28 本市	H28 全国	H31 本市	H31 全国
勉強が好き (どちらかというとき)	国語	66.5	58.3	56.9	61.7
	算数・数学	68.2	66.0	54.7	57.9
	英語			52.4	56.0
勉強は大切 (どちらかというとき)	国語	92.0	91.3	90.3	91.0
	算数・数学	92.3	91.9	81.8	84.2
	英語			88.5	85.4
授業はよくわかる (どちらかというとき)	国語	82.3	80.7	75.9	77.6
	算数・数学	81.1	80.2	76.1	73.9
	英語			67.3	66.0
授業で学習したことは将来、役に立つ(どちらかといえば、役に立つ)	国語	87.8	89.2	87.0	88.0
	算数・数学	89.2	89.9	72.4	76.2
	英語			88.2	85.4

※H28年度の質問紙調査、H31年度の質問紙調査(小学校)では英語の該当内容について質問がなかったため記載しておりません。

今回の中学校3年生は、平成28年度調査の時、小学校6年生であったので、平成28年度の小学校の回答と平成31年度の中学校との回答を比較しました。

「勉強が好き」と答えた生徒の割合は、**国語が-9.6%**、**算数・数学が-13.7%**となっており、特に「算数・数学好き」の子どもが減る割合が大きくなっています。また、「授業内容がよくわかる」と答えた生徒を比較する**国語が-6.4%**、**算数・数学が-5.0%**となり、今回の結果は、小学校と比べ中学校では理論的な授業が増え、内容が難しくなることも要因の一つとして考えられます。

しかし、本年度の中学校の意識調査で、数学について「授業はよくわかる」と答えた本市の生徒は、全国平均を上回っており、学力調査の結果も全国と比較すると「良好」という結果になっています。また、平成28年度と平成31年度の結果を比較すると、低下の割合も、全国平均と比べ、低くなっています。

## 【指導の改善の方向性】

- ア 教科に関する調査で良好な結果を残しながらも、「勉強が好き」、「勉強が大切」、「学習したことは将来、社会で役立つ」と感じる割合が、小学生から中学生になると低下していることから、発達段階に応じた動機づけや生活にいかせる授業展開が各教科で求められる。
- イ 算数・数学については、各学校にチューターが配置されていることもあり、「よくわかる」と答えた児童生徒の割合は高く、特に中学校で顕著となっている。今後も、チューターの有効的な活用により、学習に対する意欲や学力の定着が十分に進まない児童生徒に対する、きめ細かな指導を継続して行うことで、学力向上につなげていく。

## 6 学習や生活に対する意識・実態について

(単位：%)

No.	内 容	区分	H31	
			本市	全国
1	学校のきまり(規則)を守っている。	小学校	33.2	46.7
		中学校	70.6	66.8
2	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。	小学校	82.1	85.0
		中学校	71.1	78.3
3	家の人(兄弟姉妹を除く)と学校での出来事について話をする。	小学校	51.7	50.1
		中学校	51.2	46.4
4	自分にはよいところがあると思う。	小学校	38.9	38.8
		中学校	28.5	29.0
5	将来の夢や目標を持っている。	小学校	67.3	65.9
		中学校	47.6	44.9

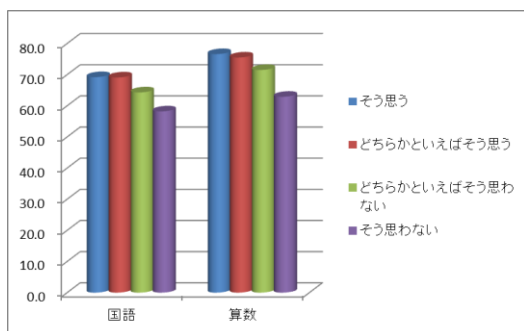
- ◆ 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」と思っている割合が、小学生、中学生ともに全国と比較して低くなっています。この結果を課題としてとらえ、道徳教育等も含めた教育活動全体を通して取組をすすめていくことが大切です。また、「芦屋市いじめ防止基本方針」や各校における「学校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの未然防止を中心に、早期発見・早期対応についての取組をさらに充実させる必要があります。
- ◆ 全国と同様、本市においても児童生徒の自尊感情に関する設問で、肯定的なとらえ方が低いと言えます。運動会、合唱コンクール、小学校の自然学校、中学校のトライやる・ウィーク等さまざまな行事や体験活動を通して、挑戦し、やりきった達成感を味あわせるとともに、自信を持たせることが大切です。そのためにも、達成したことをほめたり、評価したりすることで家庭・地域・学校園が連携して、子どもたちの自主性を尊重しながら、それぞれの立場から子どもたちを見守り、育てるという取組を進めていくことが大切です。



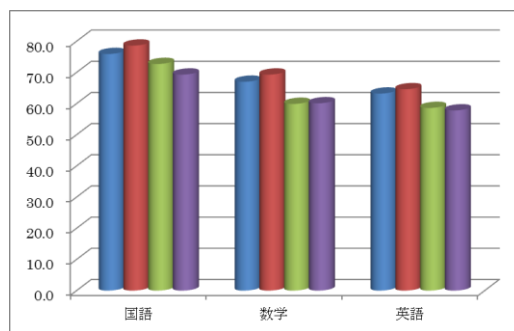
## 7 生活習慣や学習環境と教科に関する調査結果の関係

(1) 「自分にはよいところがあると思いますか？」の質問に、児童生徒が回答した選択肢別の平均正答率との関係

小学校



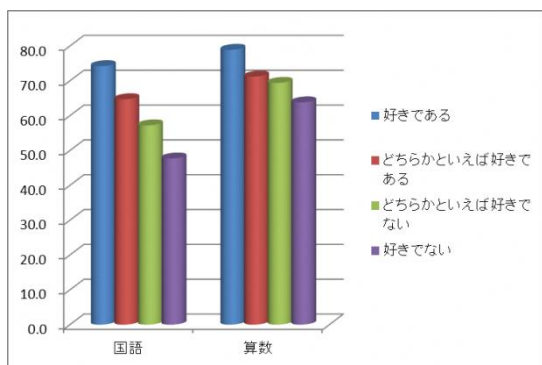
中学校



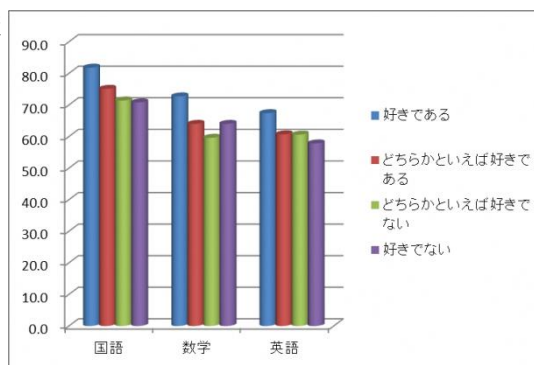
- 本市において、自分にはよいところがあると思う（どちらかといえばそう思う）と回答した児童生徒の平均正答率は、全ての教科にわたって、全体の平均正答率を上回っています。中学校では、どちらかといえばそう思うと回答した生徒の平均正答率が一番高いが、思春期の影響もあると考えられます。自己肯定感が高い児童生徒は、学習に前向きに取り組む傾向が見られる。自己肯定感を上げる経験を学校生活の中で多く得られるように取り組みをすすめていきます。

(2) 「読書は好きですか？」の質問に、児童生徒が回答した選択肢別の平均正答率との関係

小学校



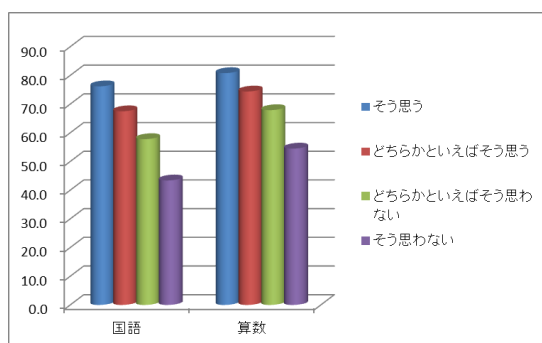
中学校



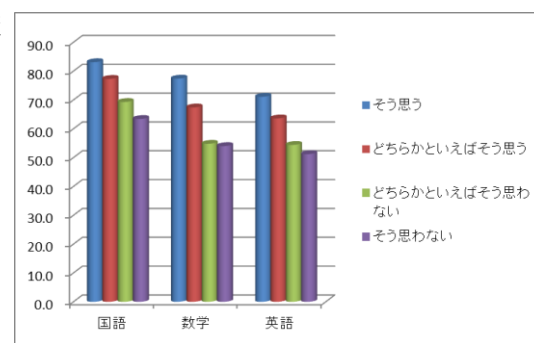
- 本市において、読書が好きと回答した児童生徒は、小学校は全国平均を上回っていますが、中学校では全国平均を下回っています。また、読書が好きと回答をした児童生徒は、小中学校ともに全ての教科にわたって全体の平均正答率を上回っている。本調査は、各教科の問題文を読み解く力も問われているととらえることができるが、結果に顕著に表れています。

(3) 「授業では課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか？」の質問に、児童生徒が回答した選択肢別の平均正答率との関係

小学校



中学校

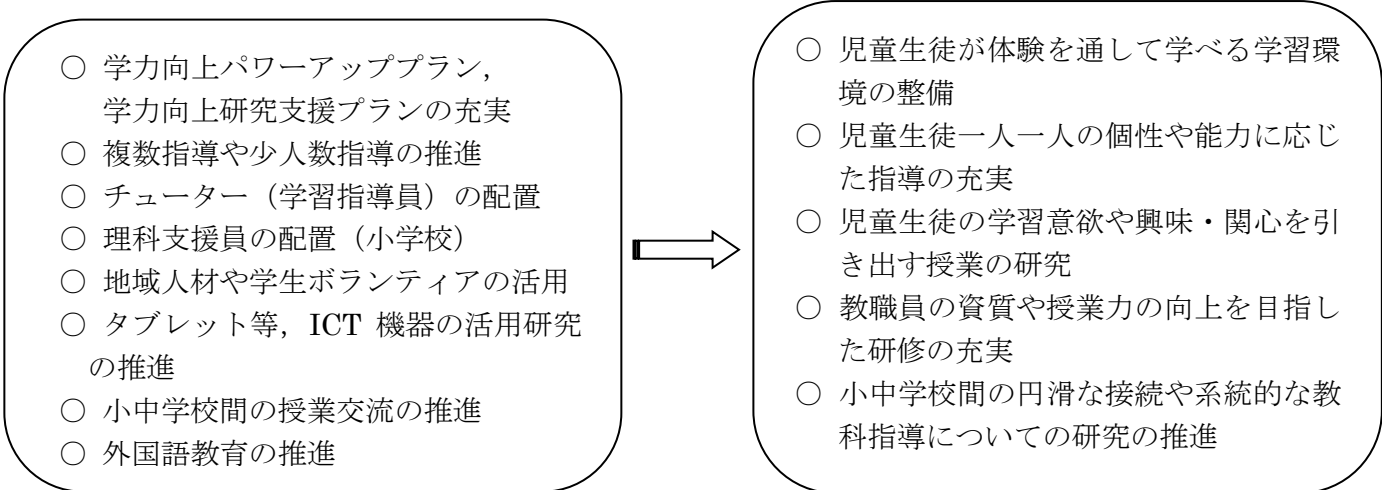


- ◆ 本市の「授業では課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか?」の質問で、自分で考え、自分から取り組んでいた(どちらかといえばそう思う)」と回答した割合は小学校では全国平均を上回っていますが、中学校では全国平均を下回っています。自分で考え、自ら取り組んでいたと感じている児童生徒の平均正答率は、全ての教科において全体の正答率を上回っています。今後も、児童生徒たちの主体的・対話的で深い学びをより一層充実させる取り組みをすすめていきます。

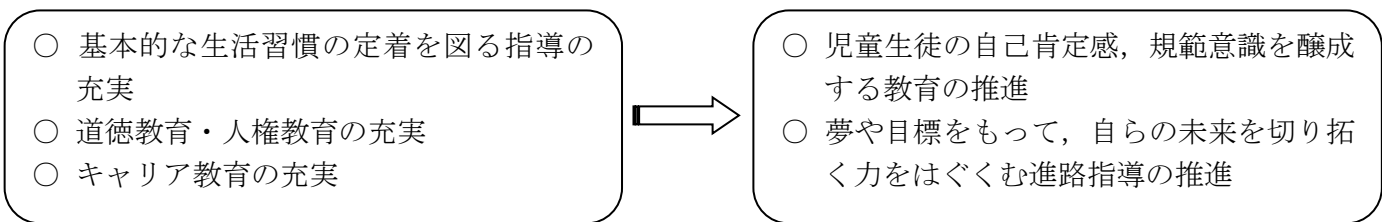
## 8 教育委員会の取組について

教育委員会では、芦屋市教育振興基本計画に基づき、児童生徒の知・徳・体の調和した「人間力」の育成を図る中で、学力向上のために本調査の結果を活用し、次のような取組を進め、学校の教育活動を支援していきます。

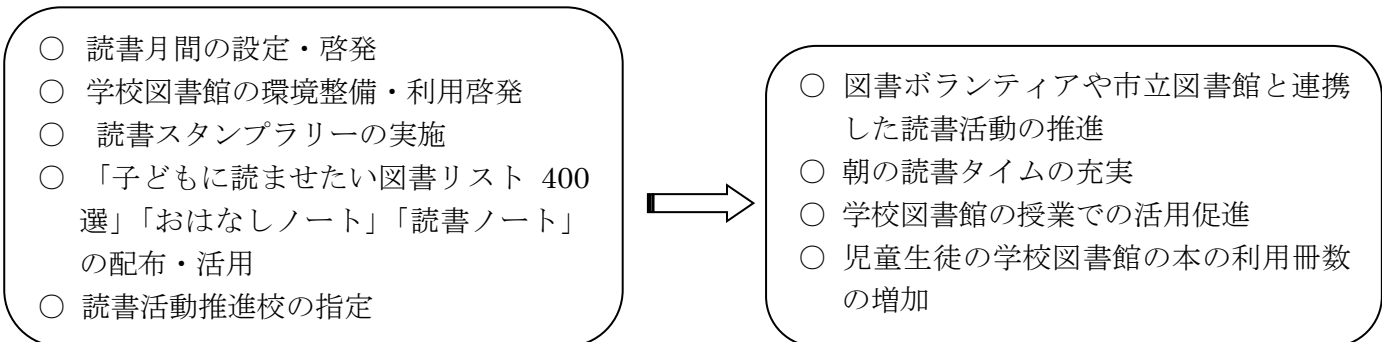
### (1) 学習指導・授業研究の充実



### (2) 生徒指導・進路指導の充実

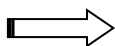


### (3) 読書活動の推進



(4) 家庭への啓発・連携の強化

○ 保護者，地域への取組の発信



○ 家庭との連携による児童生徒の生活習慣，学習習慣の向上

9 家庭・地域での取組について

- ◆ 約束ごととはきちんと守らせて，規則正しい生活が送れるようにしましょう。
- ◆ 学校での出来事や社会で起こっていることについて，親子で話をする機会を増やしましょう。
- ◆ 親子で読書に取り組む時間をとりましょう。
- ◆ 子どものよいところや頑張ったところを積極的に認め，評価しましょう。
- ◆ 子どもが地域の中で活動し，活躍できる機会を増やしましょう。
- ◆ 親子でインターネットやスマートフォン，SNS等に依存しないような環境を作りましょう。

児童生徒の生活習慣や学習環境に関する質問紙調査結果(全項目)

【小・中共通項目】

※小・中学校の( ) 数値は，4つの選択肢(1:当てはまる 2:どちらかという当てはまる 3:どちらかといえば，当てはまらない 4:当てはまらない)がある質問で，1と回答した割合

No.	質問事項	区分	小学校	中学校
1	朝食を毎日食べている・どちらかといえば，食べている	芦屋市	94.0 (84.3)	94.1 (84.2)
		全国	95.3 (86.7)	93.1 (82.3)
2	毎日，同じくらいの時刻に寝ている・どちらかといえば寝ている	芦屋市	79.3 (33.4)	85.4 (41.9)
		全国	81.4 (38.9)	78.0 (33.6)
3	毎日，同じくらいの時刻に起きている・どちらかといえば起きている	芦屋市	89.6 (55.9)	95.1 (62.1)
		全国	91.6 (58.7)	92.8 (57.0)
4	家の人(兄弟姉妹除く)と学校の出来事について話す・どちらかといえば話す	芦屋市	77.3 (51.7)	80.4 (51.2)
		全国	77.4 (50.1)	76.4 (46.4)
5	自分には，よいところがあると思う・どちらかといえばあると思う	芦屋市	78.6 (38.9)	74.3 (28.5)
		全国	81.2 (38.8)	74.1 (29.0)

No.	質問事項	区分	小学校	中学校
6	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う・どちらかといえば思う	芦屋市	79.1 (34.7)	77.5 (29.1)
		全国	86.1 (43.1)	81.5 (31.3)
7	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思う・どちらかといえば思う	芦屋市	88.9 (54.0)	78.0 (30.2)
		全国	91.7 (59.5)	84.6 (37.3)
8	将来の夢や目標を持っている・どちらかといえば持っている	芦屋市	83.9 (67.3)	69.1 (47.6)
		全国	83.8 (65.9)	70.5 (44.9)
9	ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある・どちらかといえばある	芦屋市	94.5 (82.7)	95.7 (78.7)
		全国	95.2 (79.5)	93.9 (75.6)
10	難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦している・どちらかといえばしている	芦屋市	78.8 (31.4)	64.7 (19.0)
		全国	79.0 (30.1)	70.3 (22.5)
11	学級みんなで話し合って決めたことなどに協力して取り組み、うれしかったことがある・どちらかといえばある	芦屋市	80.2 (44.1)	80.2 (46.8)
		全国	84.1 (45.8)	82.8 (45.4)
12	学校に行くのは楽しいと思う・どちらかといえば思う	芦屋市	86.0 (56.4)	83.0 (43.7)
		全国	85.8 (53.9)	81.9 (45.7)
13	学校のきまり（規則）を守っている・どちらかといえば守っている	芦屋市	88.2 (33.2)	96.3 (70.6)
		全国	92.3 (46.7)	96.2 (66.8)
14	人が困っているときは、進んで助けている・どちらかといえば助けている	芦屋市	85.2 (37.1)	83.8 (28.3)
		全国	87.9 (40.4)	85.9 (34.6)
15	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う・どちらかといえば思う	芦屋市	96.1 (82.1)	93.8 (71.1)
		全国	97.1 (85.0)	95.1 (78.3)

No.	質問事項	区分	小学校	中学校
16	人の役に立つ人間になりたいと思う・どちらかといえば思う	芦屋市	94.6 (75.7)	94.3 (68.0)
		全国	95.2 (74.7)	94.3 (71.1)
17	家で自分で計画を立てて勉強している・どちらかといえばしている	芦屋市	73.9 (36.5)	45.0 (13.2)
		全国	71.5 (33.1)	50.4 (14.9)
18	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たり3時間以上、勉強をする（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）	芦屋市	37.1	14.4
		全国	12.4	9.9
19	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たり1時間以上、読書をする（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）	芦屋市	20.9	12.6
		全国	18.3	12.4
20	昼休みや放課後、学校が休みの日に、本（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館に週に1回以上行く	芦屋市	15.3	11.5
		全国	17.2	8.3
21	読書が好きである・どちらかといえば好きである	芦屋市	81.6 (52.0)	61.5 (36.4)
		全国	75.0 (44.3)	68.0 (38.9)
22	新聞をほぼ毎日読んでいる	芦屋市	12.0	7.1
		全国	7.0	4.4
23	今住んでいる地域の行事に参加している・どちらかといえば参加している	芦屋市	54.1 (24.0)	35.5 (12.8)
		全国	68.0 (37.2)	50.6 (21.0)
24	地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある・どちらかといえばある	芦屋市	54.1 (19.3)	31.6 (7.9)
		全国	54.5 (18.9)	39.4 (11.5)
25	外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思う・どちらかといえば思う	芦屋市	74.7 (45.9)	66.4 (38.1)
		全国	68.6 (39.2)	62.4 (33.0)
26	日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の日にもっと知ってもらいたいと思う・どちらかといえば思う	芦屋市	78.0 (49.0)	51.7 (25.9)
		全国	76.1 (46.7)	59.3 (25.8)

No.	質問事項	区分	小学校	中学校
27 (30)	小学校5年生までに（中学校1，2年生のときに）受けた授業で，コンピュータなどのICTを週1回以上使用した	芦屋市	20.8	29.7
		全国	30.6	30.6
28 (31)	授業でもっとコンピュータなどのICTを活用したいと思う・どちらかといえば思う	芦屋市	84.4 (60.3)	71.2 (42.3)
		全国	86.5 (60.8)	78.3 (48.0)
29 (32)	学級の友達との間で（生徒の間で）話し合う活動を通じて，自分の考えを深めたり，広げたりすることができていると思う・どちらかといえば思う	芦屋市	75.8 (36.6)	70.3 (29.2)
		全国	74.1 (30.3)	72.8 (28.3)
30 (33)	授業で学んだことを他の学習に生かしている・どちらかといえば生かしている	芦屋市	83.7 (42.7)	69.3 (21.7)
		全国	82.8 (38.9)	74.9 (26.9)
31 (34)	総合的な学習の時間では，自分で課題を立てて情報を集め整理して，調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思う・どちらかといえば思う	芦屋市	58.4 (20.5)	45.1 (12.1)
		全国	65.7 (25.1)	61.5 (20.3)
32 (35)	あなたの学級では，学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い，互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思う・どちらかといえば思う	芦屋市	76.6 (36.1)	67.4 (22.9)
		全国	74.0 (30.1)	71.6 (25.3)
33 (36)	学級活動における学級の話し合いを生かして，今，自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると思う・どちらかといえば思う	芦屋市	71.9 (26.6)	60.5 (16.8)
		全国	73.4 (28.8)	65.6 (21.0)
34 (39)	道徳の授業（中学校1，2年生のときに受けた道徳の授業）では，自分の考えを深めたり，学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる（いた）と思う・どちらかといえば思う	芦屋市	83.0 (44.6)	70.1 (30.0)
		全国	80.9 (42.1)	76.6 (34.0)
35 (37)	小学校5年生までに（中学校1，2年生のときに）受けた授業では，課題の解決に向けて，自分で考え，自分から取り組んでいたと思う・どちらかといえば思う	芦屋市	77.9 (35.0)	71.3 (25.3)
		全国	77.7 (33.0)	74.8 (29.3)
36 (38)	小学校5年生までに（中学校1，2年生のときに）受けた授業では，自分の考えを発表する機会では，自分の考えがうまく伝わるよう，資料や文章，話の組立てなどを工夫して発表した・どちらかといえばそう思う	芦屋市	66.0 (27.6)	52.2 (15.4)
		全国	62.5 (24.7)	55.8 (18.1)

No.	質問事項	区分	小学校	中学校
37 (40)	国語の勉強は好きである・どちらかといえば好きである	芦屋市	70.3 (32.8)	56.9 (23.9)
		全国	64.2 (26.5)	61.7 (24.6)
38 (41)	国語の勉強は大切だと思う・どちらかといえば大切だと思う	芦屋市	93.5 (75.1)	90.3 (58.3)
		全国	93.0 (68.6)	91.0 (59.0)
39 (42)	国語の授業の内容はよく分かる（どちらかといえば分かる）	芦屋市	86.9 (47.3)	75.9 (29.1)
		全国	84.9 (41.2)	77.6 (28.4)
40 (43)	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思う（どちらかといえば思う）	芦屋市	91.2 (67.7)	87.0 (52.2)
		全国	91.0 (64.2)	88.0 (53.7)
41 (44)	国語の授業で学習したことを、普段の生活の中で、話し合ったり聞いたり書いたり読んだりするときに活用しようとしている（どちらかといえばそう思う）	芦屋市	75.4 (40.7)	66.2 (25.7)
		全国	76.9 (37.2)	71.6 (31.2)
42 (45)	国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしている（どちらかといえばしている）	芦屋市	78.2 (38.7)	70.3 (29.2)
		全国	78.1 (36.2)	77.4 (32.5)
43 (46)	国語の授業で自分の考えを話したり書いたりするとき、うまく伝わるように理由（根拠）を示したりするなど、話や文章の組立てを工夫している（どちらかといえば工夫している）	芦屋市	69.9 (29.6)	55.4 (19.8)
		全国	68.5 (26.1)	64.4 (20.9)
44 (47)	国語の授業で文章や資料を読むとき、目的に応じて、必要な語を見つけたり、文章や段落どうしの関係を考えたりしながら読んでいる（どちらかといえばそう思う。）	芦屋市	73.6 (34.5)	60.5 (20.2)
		全国	71.4 (30.3)	68.4 (25.2)
45 (48)	今回の国語の問題について、すべての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した	芦屋市	84.7	84.4
		全国	80.4	79.8
46 (49)	算数（数学）の勉強が好きである（どちらかといえば好きである）	芦屋市	72.4 (45.0)	54.7 (30.7)
		全国	68.6 (40.6)	57.9 (30.7)

No.	質問事項	区分	小学校	中学校
47 (50)	算数（数学）の勉強は大切だと思う（どちらかといえば大切だと思う）	芦屋市	94.0 (79.8)	81.8 (47.4)
		全国	93.7 (75.6)	84.2 (49.8)
48 (51)	算数（数学）の授業の内容がよくわかる（どちらかといえばわかる）	芦屋市	84.9 (52.7)	76.1 (37.0)
		全国	83.5 (49.3)	73.9 (34.8)
49 (52)	算数（数学）の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う（どちらかといえば役に立つと思う）	芦屋市	91.5 (74.4)	72.4 (36.8)
		全国	92.5 (72.3)	76.2 (40.3)
56 (53)	今回の算数（数学）の問題について、すべての書く問題で最後まで書こうと努力した。	芦屋市	84.9	69.4
		全国	80.7	60.8
57 (67)	調査問題の回答時間は十分だった（国語）	芦屋市	74.0	91.7
		全国	74.2	90.3
58 (68)	調査問題の回答時間は十分だった（算数、数学）	芦屋市	88.1	90.3
		全国	84.0	84.7

中学校問題

No.	質問事項	区分	中学校
27	学校の部活動に参加している	芦屋市	86.5
		全国	87.5
28	普段（月曜日から金曜日）、1日当たり2時間以上部活動をしている	芦屋市	41.1
		全国	53.0
29	学校の部活動に参加する理由は、楽しいからである。	芦屋市	32.0
		全国	26.3
54	英語の勉強が好きである・どちらかといえば好きである	芦屋市	52.4 (28.9)
		全国	56.0 (29.0)
55	英語の勉強は大切だと思う（どちらかといえば大切だと思う）	芦屋市	88.5 (67.4)
		全国	85.4 (58.9)



No.	質問事項	区分	中学校
56	英語の授業はよくわかる・どちらかといえばよくわかる	芦屋市	67.3 (29.6)
		全国	66.0 (29.5)
57	英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う・どちらかといえば役に立つと思う	芦屋市	88.2 (68.8)
		全国	85.4 (60.7)
58	これまで、学校の授業やそのための学習以外で、日常的に英語を使う機会（地域の人や海外にいる人と英語で話す、英語で手紙や電子メールを書く、英語のテレビやホームページを見る、英会話教室に通うなど）が十分にあった・どちらかといえばあった	芦屋市	42.3 (23.3)
		全国	33.8 (15.4)
59	将来、積極的に英語を使うような生活をしたたり職業に就いたりしたいと思う（どちらかといえばそう思う）	芦屋市	48.2 (24.5)
		全国	41.3 (18.2)
60	中学校1，2年生のときに受けた授業では、英語を聞いて（一文一文でなく全体の）概要や要点をとらえる活動が行われていたと思う。（どちらかといえばそう思う）	芦屋市	73.3 (30.2)
		全国	79.2 (33.6)
61	中学校1，2年生のときに受けた授業では、英語を読んで（一文一文でなく全体の）概要や要点をとらえる活動が行われていたと思う。（どちらかといえばそう思う）	芦屋市	74.3 (32.2)
		全国	81.2 (35.7)
62	中学校1，2年生のときに受けた授業では、原稿などの準備をすることなく、（即興で）自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていたと思う（どちらかといえばそう思う）	芦屋市	64.3 (31.2)
		全国	62.9 (26.0)
63	中学校1，2年生のときに受けた授業では、スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行われていたと思う（どちらかといえばそう思う）	芦屋市	86.3 (55.9)
		全国	77.2 (41.9)
64	中学校1，2年生のときに受けた授業では、自分の考えや気持ちなどを英語で書く活動が行われていたと思う（どちらかといえばそう思う）	芦屋市	82.2 (47.0)
		全国	80.1 (41.0)
65	中学校1，2年生のときに受けた授業では、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語を問答したり意見を述べ合ったりする活動が行われていたと思う（どちらかといえばそう思う）	芦屋市	80.5 (45.5)
		全国	77.4 (39.1)

No.	質問事項	区分	中学校
66	中学校1, 2年生のときに受けた授業では、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする活動が行われていたと思う（どちらかといえばそう思う）	芦屋市	74.7 (35.0)
		全国	74.6 (39.1)
69	調査問題の回答時間は十分だった（英語）	芦屋市	69.6
		全国	63.0

小学校問題

No.	質問事項	区分	小学校
50	算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えている・どちらかといえば考えている）	芦屋市	73.7 (42.6)
		全国	76.5 (41.4)
51	算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思う（どちらかといえば解いてみたいと思う）	芦屋市	79.5 (54.5)
		全国	79.1 (51.7)
52	算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考える。（どちらかといえば考える）	芦屋市	84.1 (50.2)
		全国	82.0 (46.3)
53	算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考える（どちらかといえば考える）	芦屋市	84.7 (53.0)
		全国	82.1 (47.7)
54	算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている（どちらかといえばしている）	芦屋市	85.8 (53.6)
		全国	84.0 (48.4)
55	算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている（どちらかといえば書いている）	芦屋市	86.4 (60.4)
		全国	87.0 (57.5)